

- 注意点・点検ポイント

- ユニック作業の注意点

作業を始める前に、トラックの周りを全体的にみるようにして、障害になるものとか、後ろの品物から降ろす時は、前の品物にユニックのブームが当たらないのかを作業を始める前にシミュレーションするようにしてください。

又、天井ギリギリにブームを伸ばして荷卸しするときは、荷卸し時にブームが上に跳ね上がりますのでその分を考えて間隔を空けて作業するようにしましょう

- ユニック装置の点検

通常の操作時の音をよく覚えておいてください。異音があれば、場所とオイル漏れがないかと、金属的な音か、エア(オイル)漏れかを判断できるようにしておいてください。

- 機械の積み付け方法の注意点

機械本体から飛び出しているアンテナとか、信号灯とかは、積先で外してもらうか、緩めて下げてもら



らうか、駄目な時は毛布で周りを固めて、ガムテープでぐるぐる巻きにするようにしないと、着いた時には曲がっていることが多いのです。その部分で、シートを合わせるようにして、アンテナ部分のみブルーシートで養生するのも方法です。

大きな、長い機械などを積むと大きなシートをかけますが、機械が凸凹な時には、シートの上から長いシートゴムとかを利用して凸凹の部分が風でバタバタしないように抑え

込む必要があります。運転席にでも常に予備のシートゴムを用意しておきましょう。

➤ ラッシングベルトの注意点

ラッシングベルトと、レバーブロックと、トラックロープを使い分けて荷締めをしてください。

ラッシングベルトは、便利ですが万能ではありません。強く締めると変形するような品物には、トラックロープを使いましょう。ロープで締めるには、最後に万力という締め方を使ってトラックの外フックに縛り付けます。

もう少し締めておかないと心配な時には、ダブル万力という締め方でやはりボディの外フックに縛り付けます。

また、鉄関係でも刃先のあるような鉄骨などをラッシングベルトで締め付けると走っているうちに振動で切れてしまいますので、必ず毛布とか、角当てタコパットなどを利用して切れないようにしてください。

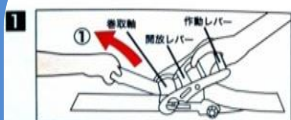
又、上部が重いような不安定な機械とか機材は、レバーブロック

を利用してワイヤーで固定するのが一番かと思います。この時にも完全すぎるぐらいの養生、当てものをしてください。

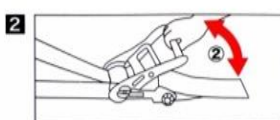
機械の固定に30分余計に掛かっても、3時間走ることを考えるとどれだけ安心、安全かがわかるとと思います。



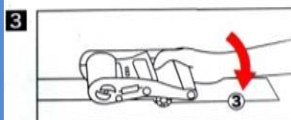
使用方法



1 調節側のベルト端末をラチェットの下から巻き取り軸に通し、矢印①の方向に、たるまなくなるまで引いてください。



2 作動レバーだけを握り矢印②の方向に、上下に繰り返し操作するとベルトが徐々に強く締まります。巻取軸には2回転位ベルトを巻き取ってください。



3 作動レバーを矢印③の方向に完全に戻し、最後に、開放レバーを握ってロックかけたら、これで完了です。



4 作動レバーと開放レバーを同時に握って、矢印④の方向に180度開くとベルトが開放されます。

※必ず付属の取扱説明書を熟読し、注意事項について習熟してから正しくお使いください。

➤ 冬季の雪道の走行注意点

毎年雪のシーズンになると1回はあるのですが、上り坂の途中でストップしてしまい、身動きが取れないことがあります。下り坂の場合は追突になるか側道に脱輪するしかなくなります。このような時には、恥ずかしいかもしれませんが、安全のためにも、前の車が登り切ってから、下り切ってから進入するようにしてください。

